

1. 病棟の具体的な目標と評価

1) 安全で質の高い看護を提供する

初回化学療法のICはがん性疼痛緩和ケア認定看護師の同席を依頼し、必要としている支援や介入と一緒に考え、カンファレンス記録に残して共有している。患者、家族の支援の必要性を意識し質の高い看護の提供に努めている。看護計画に関しては、個別性のある内容に改善された。今後は2回目以降の看護計画の評価をタイムリーに実施し援助の実践に繋がるようにスタッフ個々の意識改革に努め取り組んでいる。

2) 病院運営・経営に参画する

平均在院患者数 42.7 人(前年度 47.2 人)、病床稼働率 95.1%(前年度 98.4%)と減少したが、退院促進に向けて医師と連携を図ることで、平均在院日数 14.6 日(前年度 15.6 日)と前年度より短縮できた。特別室稼働率は、有効なベッドコントロールを行うことで 100.4%(前年度 99.3%)に上昇した。SPD シールについては、SPD 係を中心に毎月紛失物品の値段の報告を行うなどコスト意識を高める働きかけを強化することで、SPD シール紛失は 33 枚、金額は 9,424 円(前年度 40 枚、60,154 円)と減少した。

3) 患者の視点に立った医療安全を推進する

薬剤によるインシデントが全体の 5 割を占めており、昨年度は 141 件と増加していた。主な原因は確認不足であり、6R のタイミング・指差呼称の定着に取り組んだ。結果インシデント減少にはつなげていないが、集中した環境で作業が行えるように内服薬準備場所の整備を行い、場所を固定することで作業の中断はなくなった。

物品管理は昨年度紛失物が 2 つあったが、倉庫の整理整頓と定数見直し、管理表の整理と所在の確認を徹底することで、物品の破損や紛失はなくなり物を大切にすることが高まった。

4) 専門職としての能力開発に努める

毎月、プリセプター会やプリセプティ会を実施し、病棟全体で情報共有しながら新人育成を行うことができた。またリーダー会や病棟会を時間管理を意識した運営方法に変更し、時間の有効活用ができています。病棟勉強会や院外研修参加者からの伝達講習を行い、知識や技術の向上に繋がっている。現在、病棟スタッフに呼吸療法認定士の資格取得者がいないため、取得に向け研修参加中である。

5) 看護の先輩として学生指導に携わる

実習指導者担当者が不在日は、学生が相談しやすいように学生窓口看護師名を明示した。学生の関りは指導者任せにせずスタッフ全員で取り組み学生評価は、受け入れ環境の項目では 4.9 点、実習指導者からの指導に関しては 4.8 点と評価されている。

6) 活気ある職場、元気の出る職場づくりを推進する

年休取得は、一人平均 6.6 日。目標値には達していないが、リフレッシュ休暇やワークライフバランス活用は計画的に取得できている。PNS マインドについて病棟内で講義を実施した。具体的な場面を通して自己を振り返り、マインド形成について考える時間が持てた。年間パートナーとペアでの日勤は各自 10 回以上組むことができ、役割を請け負うという姿勢が持てるようになっている。

2. 病床運営状況

表1 令和2年度 病床運営状況

| 収容可能 病床数(床) | 診療科名 | 月平均 | | 平均在院 患者数(人) | 平均在院 日数(日) | 病床 利用率(%) | 病床 稼働率(%) |
|----------------|--------------------------|-----------|----------|----------------|---------------|--------------|--------------|
| | | 新入院患者数(人) | 退院患者数(人) | | | | |
| 48 | 呼吸器内科 呼吸器外科 アレルギー科 | 85.9 | 91.3 | 42.7 | 14.6 | 88.9 | 95.1 |
| 重症加算病床 | | 有料個室 | | 死亡者数 (人) | | | |
| 病床数(床) | 稼働率(%) | 病床数(床) | 稼働率(%) | | | | |
| 3 | 87.8 | 7 | 100.4 | 39 | | | |

3. 看護体制

表2 令和2年度 看護体制 (令和2年4月1日現在)

| 配置人数(人) | 看護方式 | 夜勤体制(準:深) |
|---------|------------------|-----------|
| 32 | PNS [®] | 4:3 |

4. 看護統計

1) 重症度、医療・看護必要度

表3 令和2年度 一般病棟 重症度、医療看護必要度Ⅱ

| 基準を満たす患者の 割合(%) | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 平均 |
|--------------------|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | | 25.8 | 26.1 | 27.8 | 28.3 | 30.5 | 29.7 | 31.7 | 28.6 | 30.2 | 37.3 | 32.3 | 28.3 |

2) 部署データ

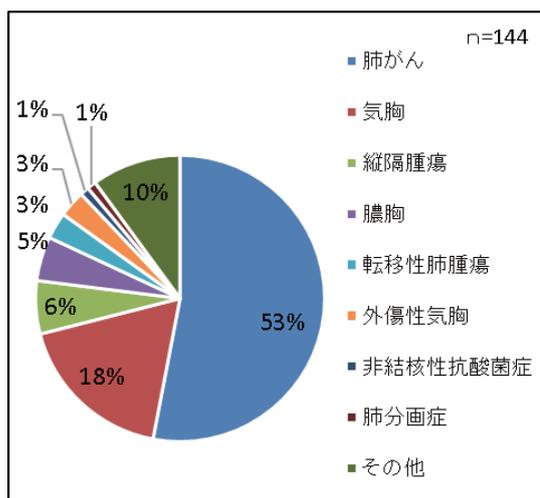


図1 呼吸器外科疾患別割合

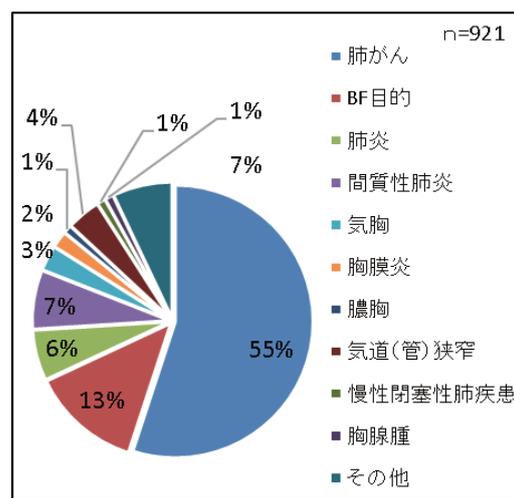


図2 呼吸器内科疾患別割合

- (1) 抗がん剤治療件数 788 件/年 (呼吸器科・血液内科・消化器内科など)
- (2) 手術件数 176 件/年 (呼吸器外科・外科など)
- (3) 気管支鏡検査件数 263 件/年
- (4) パス使用件数 747 件/年
- (5) 人工呼吸器管理(延べ日数) 人工呼吸器 51 日 NIPPV141 日 ネーザルハイフロー146 日

5. 研究実績

1) 看護研究発表会・研究会発表

A) A病棟におけるデスクカンファレンスシートの記載例を用いた有用性

辻村 英香

第74回 国立病院総合医学会

2020年11月11日